

報告

6月
Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

総務委員会

支部長会議を開催

目立った分水嶺への発言

総会に先だって、10時30分より、支部長会議が開催された。福島支部をのぞく全支部長と平山会長、平林・橋本両副会長、理事4名が出席し、藤本理事が司会を行った。冒頭、平山会長から挨拶があり、そのなかで、支部長会議の回数を増やし、支部開催も考えたらどうか、という提案があった。

次に藤本理事から、通常総会用資料についての説明、新しい支部長の自己紹介があり、つづいて各支部からの報告が行われた。

報告は、中央分水嶺踏査に関する発言が目立ち、1年間の山行のほとんどを分水嶺踏査にあてた支部、1千⁺の踏査にガソリン代だ

けでも60万円かかったという支部、支部員が減ったという支部もあった。反対に、分水嶺踏査で盛り上がり、結束したという報告もあった。

本部からは、中央分水嶺の踏査状況、100周年記念事業の進捗状況、100周年記念事業の収支や募金についての報告があり、最後にブロック記念式典の進捗状況が担当支部から報告された。

(永田 弘太郎)

ミニ水力発電小委員会

新たな

研究テーマへの取り組み

上高地山岳研究所に併設しているミニ水力発電実験施設に対し、環境省をはじめとする関係諸官庁より5年間の延長使用が認められ

たことから、これまで構築してきた実験設備、蓄積してきた基礎データならびに運用のノウハウをもとに実用化に向けた新たな研究テーマに取り組みこととした。活動の近況と研究テーマの概要について紹介する。

近況報告

4月29日、30日の山研開所作業に合わせ山研運営委員ならびに共同研究先である神奈川工科大学の学生の応援を得て冬季中に撤去していた取水設備の設置、発電設備の接続・調整を実施した。例年に比べ残雪が少なかつたので、導水管の掘り出しなど時間と労力を要する作業が軽減された分、余裕のある作業となった。昨年までは、サイジタンク(導水管の途中に入る水圧調整タンク)をオーバーフローした水はその周囲に排水していたが、今回からはサイジタンクを一新して、余剰水も沢へ戻すなど、より環境に優しいシステムとなるように配慮した点が新たな特長となっている。

研究テーマ

ミニ水力発電の実用化には、発電設備の運転に際し出来るだけ管理者(山小屋の従業員など)の手

「シェルパのルーツ・チベットから ネパール国境を歩いて越えて」

世界第8の高峰、チョーオユー峰、そのBC近くに位置するのがナンパ(716m)です。シェルパ族がチベットから移住してきたルーツの一つです。

◎チョー・オユーBCとナンパ(特)越え
9月25日～10月13日 ¥780,000

Wec

株式会社ウェック・トレック
国土交通大臣登録旅行業 1662号

〒105-0003 東京都港区西新橋3-24-8 山内ビル4階
電話 03-3437-8848 mail info@everest.co.jp

を煩わせないこと、すなわち自動運転化が実用化の鍵となる。すなわち、電力を必要とする照明などの装置(負荷)に対し、発電設備からの電力供給を自動的に制御するシステムが必要となる。現状のシステムでは、負荷が変動すると、発電機の変動数の変動となって表れ、極端な回転数の変動は発電機にダメージを与える恐れがある。したがって、回転数をほぼ一定に保つように、管理者の手によって負荷制御を行う必要があるため、使用できる負荷は照明などの一部

に固定せざるを得なかった。今回取り組むテーマは、これら手動で行われている負荷制御の自動化を実現するシステムの開発と実現環境における検証を目的としている。具体的には山研で使用している負荷の種類を重要度により3つのグループに分け、バッテリーの充電状態や負荷の電力使用状況に応じて重要度の低いものから自動的に接続の on・off が行えるような仕組みを構築し、これをマイコンで制御しようとするものである。これが実現すれば、現状75〜80%に抑えている発電機の出力を定格(1*10程度)まで上げることが可能となる。また、山研利用者向けの冷蔵庫をはじめとして、いろいろな負荷へ電源供給範囲を広げることが可能になるので、こういった目に見える形で自然エネルギーの有用性を訴えていく予定である。

(柴山 信夫)

学生部

合同新人歓迎会と各大学の新人状況

5月16日、17日、奥多摩の水川キャンプ場にて学生部に集まる諸

大学合同新人歓迎キャンプを催した。今年度は部員数がゼロになる部もでてくるということで、新人勧誘には「横のつながり」を大切に、大学の垣根を越えた横断的な新人勧誘をしている。結果として、大学によって豊作不作はあったが、学生部として次代を担う人材は、今年も少人数ではあるが、入ってきてくれたと思う。

奥多摩の新人歓迎会では早稲田大学3年の福島、古関が中心となり一貫して事前準備を引き受け、また方々に新歓期間中には手を回していただいた。

残念ながらいまだ入部希望者ゼロの部もあるが、新たに推薦入学制度を活用して意欲的な山岳部を形成している部、フリークライミングと融合して新しい形を模索する部など、いまや部の方向性はさまざまである。それでも、山登りをやりたいという新入生に対しては門戸を広く、昨年のムスタン遠征のように、他大学の仲間にも自分の登山の思想を共感できる仲間を見つけてもらえれば幸いと思う。

実際に名目上は「新入生…」たちも、意欲に燃える上級生たちとの更なる交流の場にもなれたのではないかと思う。

昨今の部員減少の傾向を、否定的な見方で捉えるばかりでなく、伝統と現行を複合化させた新しい登山の思想を、今後すべての部員が積極的に持てるようになればと考えている。そのきっかけ作りとしての歓迎交流会は、ひいては普段の学生部集会においても自然と大学山岳部全体の底上げとなるだろうと信じている。

今後とも山岳部がどうあるべきか、どうなりたいかを振り返る場の雰囲気、学生部を通して醸成していければと思う。

今年度は加藤(立教4)、古関光浩(早稲田3)、澤井京太(東京理科3)で学生部を運営していきますのでよろしくお願いします。

【新人歓迎キャンプ参加大学】立教、早稲田、拓殖、明治学院、千葉、上智、専修、青山学院、東京理科

(立教大学 加藤 健二郎)

創立100周年記念事業にご協力を

日本山岳会創立100周年記念

河口慧海の足跡をたずねて

A) 国境の峠探訪とカイルス1周トレッキング 33日間

9/12(月)~10/14(金) 785,000円

B) 秘境ムスタン・トレッキング 22日間

10/18(火)~11/8(火) 645,000円

国土交通大臣登録旅行業第499号/日本旅行業協会正会員 東京FP協会員
 アルパインツアー株式会社

T105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

◆メール投稿に関するお願い◆

- メールでの投稿歓迎します。誤字脱字などの削減、会報編集作業の能率化のため、メール投稿へのご協力をお願いします。
- 投稿の際には、jac-kaiho@jac.or.jp宛にお送りください。
- 写真付きの原稿も歓迎します。デジカメでは、画質の設定を印刷用にしてご撮影ください。ホームページ用に設定された写真などでは、画像の粒子が粗く使えない場合があります。